

いずみだ かずひろ
泉田 和洋

電機連合・書記長

「チェンジ」には 「チャレンジ精神」が必要不可欠

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしく御願いたします。

新年を迎えるにあたり、最近話題となっている「Change」をテーマに、日頃感じていることを申し上げ、新年のご挨拶と、私の今年の抱負にしていきたいと思えます。

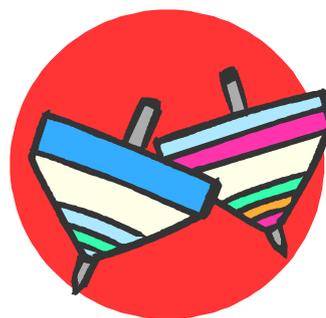
昨年の大きなできごとは、なんと言っても、私たちの長年の念願であった「政権交代」の実現がはかられたことだと思います。アメリカのオバマ大統領が掲げた「Change」が話題を呼びましたが、日本の多くの皆さんが、「長い間続いた自民党中心の国民不在のよんだ政治」から「今後に明るさの持てる政治」への「転換」を強く望んだ結果であったと思えます。この結果については、海外からも「日本人のメンタリティ（物の考え方）が変わった」とのコメントも寄せられています。

振り返れば、1980年代に入り、日本の企業はそれまでの商売のやり方を、大きく転換せざるを得ない状況になりました。その理由は、世界の経済が低迷する中で日本だけが一人勝ちして儲けているという、いわゆる「ゼ

ロサム社会での常時勝者（世界市場のポリウムが大きくなる中で、日本の企業だけが常にシェアを伸ばして儲けていること）への抵抗が高まり、日本（企業）のシェアの増加を食い止めるための（日本からの輸出を抑えるための）、急速な円高の進行によるものでした。

そこで、日本の各企業は、コーポレート・アイデンティティ（より魅力ある会社づくり）の名の下に、生き残り・勝ち残りに向けた戦略として、例えば、それまで続いた伝統ある社名の変更、社訓の見直し、コマーシャルによる会社の新しいイメージの打ち出しなど、自社の特徴を、より鮮明に打ち出し、他社との区別を明確にはかることにより、ブランド力と競争力を向上させる戦略へと転換していくことになりました。

並行して、市場のボーダレス化、グローバル化の進展に備えるために、より安価な労働力を求めて、生産拠点を海外に移転する「Change」も活発となり、このことは、日本国内における労働力分野における空洞化を引き起こし、現在においても、雇用不安を引き起こす大きな要因となっています。



この間、労働組合も、社会の変化、また、多様化する組合員の皆さんのニーズに応え、より安心で安定な生活と社会づくりに向け、ユニオン・アイデンティティづくり（より魅力ある労働組合づくり）として、「目に見える部分、活動・行動の部分、意識の部分」の3つの面からの「改革・変革」に取り組みました。

具体的には、労働組合の理念・綱領の見直し、組合旗、広報誌などのカラーやデザインの一斉刷新、春闘改革、処遇制度（賃金制度・勤務制度・福祉制度など）の見直し・改善、共済制度の充実を含めたセーフティネットの構築、経営対策の強化、政策・制度改善に向けた取り組みなどが、あげられます。

私たち労働組合の大きな使命の一つは、言うまでもありませんが、時代の変化を先取りしながら、あるいは、状況の変化に、都度、適応・対応を果たしながら、「社会と生活の安心と安定」を創り出していくことにあります。そのために、今、私たちは、経済の回復・雇用の安定、人口の動向を踏まえた社会保障制度の充実、技術・ものづくりに強い日本の復活に向けた「改革・変革」を実行して

行かなければなりません。

「現状を変える」ということは、実際にはそう簡単なことではないことは承知しています。

事業構造改革、戦略の転換に身をもって取り組んできている、ある経営者の、「これまでの経営方針や、商売のやり方を、新しいものに変えるという事について、全従業員に理解してもらい、全員に新たな行動を起こしてもらうという事は、人の体の血を全部入れ替えるのと同じくらい難しいことだ」という言葉は、現状を変えることの難しさを表した実践者としての実感だと思います。だからこそ、「Change」への取り組みは、頑張りがい、取り組みがいのある仕事でもあると考えます。

新年にあたり、「Change」をテーマに、思いつくまま、いろいろと申し上げましたが、「改革・変革」の実現に向けては、「変化することによって発生するジレンマの克服」、「関係者の理解と意識改革」、「実現に向けたあくなきチャレンジ精神」が必要不可欠であるということを改めて強く肝に銘じ、明るく元気に、今年を頑張っていきたいと思えます。